

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：切り花の品質保持技術の確立			
[要約] ガーベラ切り花における抗菌剤の前処理は花持ち延長効果がある。ストック切り花における観賞期間中の抗菌剤処理は、花持ち延長効果がある。			
フリーワード ガーベラ、ストック、抗菌剤、花持ち			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・暖地園芸研究所・花き研究室	
	協力機関	長生農林振興センター、安房農林振興センター	
実施期間	2007年度～2009年度		

[目的及び背景]

消費者の切り花に関する要望として、日持ち、花色、鮮度（見た目のみずみずしさ）、種類（品目・品種）等があげられ（農林水産省「平成 15年度花き需要別消費状況調査」）、小売店では品質保持期間保証の動きもある。

花持ちには遺伝的な要因、栽培環境、収穫後の保管・輸送環境、消費者のもとでの環境等が影響する。このうち、収穫後の保管条件について、ストック、ガーベラにおいて、抗菌剤とその処理方法が花持ちに及ぼす影響を解明する。

[成果内容]

- 1 ガーベラ切り花の抗菌剤の前処理は、観賞期間中の抗菌剤処理と同等の花持ち延長効果がある（表 1）。
- 2 ガーベラ切り花の新鮮重は抗菌剤の前処理と観賞期間中の抗菌剤処理で大きな違いはない（図 1）。
- 3 スtock切り花は、観賞期間中の抗菌剤処理により、新鮮重が保持され、花持ち延長効果がある（表 2、図 2）。

[留意事項]

[普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 抗菌剤処理がガーベラの品質保持期間に及ぼす影響

試験区	花持ち日数(日)
蒸留水 蒸留水	4.8
抗菌剤 蒸留水	9.0
抗菌剤 抗菌剤	8.0

注 1) 試験区は保管時と品質保持調査時に切り花を挿した溶液を示し、保管 品質保持調査と表記

2) 保管は 15 の暗黒下で、24時間行った

3) 室温 23、相対湿度 70% 光強度 $10\mu\text{mol}\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{s}^{-1}$ 12時間日長の条件下で花持ちを調査した

3) 品質保持期間は茎の折れた日または花弁の萎れた日までの平均日数

4) 抗菌剤はレジェンドMK(ロームアンドハース社)で処理した

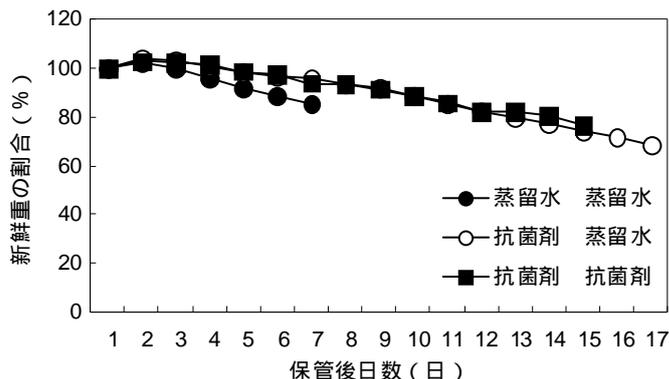


図 1 抗菌剤処理がガーベラ「ミノー」の切り花の新鮮重に及ぼす影響

注) 保管終了時の新鮮重を 100としたときの割合

表 2 抗菌剤の連続使用がストック切り花の花持ち日数に及ぼす影響

品種	処理	花持ち日数(日)
ローズアイアン	抗菌剤	11.8
	蒸留水	8.0
イエローアイアン	抗菌剤	13.0
	蒸留水	8.7

注 1) 花持ち日数は正常に開花している小花が全てしおれるまでの平均日数

2) 保管は行わず、収穫後ただちに室温 23、相対湿度 70%

光強度 $10\mu\text{mol}\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{s}^{-1}$ 12時間日長の条件下で花持ちを調査した

3) 抗菌剤はレジェンドMK(ロームアンドハース社)で処理した

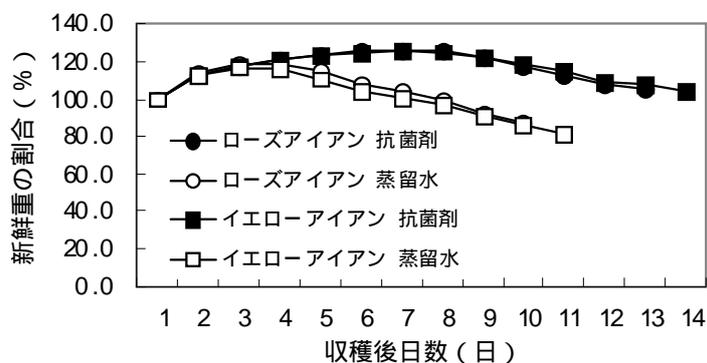


図 2 抗菌剤処理がストックの切り花の新鮮重に及ぼす影響

注) 収穫時の新鮮重を 100としたときの割合

[発表及び関連文献]

[その他]